

日本鳥学会 2007年度大会@熊本大学 ポスター発表参加報告

新田朋子

9月22日から24日の3連休を中心に、熊本大学黒髪キャンパスにおいて日本鳥学会2007年度大会が開催されました。本年、兵庫県支部では、コウノトリ158号で皆様に情報提供をお願いしましたように、兵庫県立人と自然の博物館（以下、博物館）からの委託を受け、県内のカワウ・サギ類の繁殖コロニーと集団ねぐらの分布状況を調査しています。その中間まとめ的なものを、今年の日本鳥学会の大会で発表しようというお話が博物館からありました。そこで、概ねデータが揃ったサギ類のコロニーデータを元に「兵庫県におけるサギ類のコロニーの分布とその形成要因」と題してポスター発表を行うことになりました。学会へのエントリーに始まり、要旨集に載せる原稿やポスターの作成などは、すべて今回の研究のご担当者である博物館の遠藤菜緒子研究員が作成されました。そこになぜか、ワタクシが学会当日のお手伝い(?)として、また、共同研究者として名を連ねている日本野鳥の会兵庫県支部代表(!?)として、熊本まで行ってまいりましたので、そのご報告をさせていただきます。

学会発表は、口頭発表とポスター発表の2つに大きく分けられます。口頭発表は、プロジェクターを使って図表や写真を示しながら大勢の人の前で発表します。時間は発表時間12分、質疑応答2分30秒と非常にタイトな時間設定です。一方、ポスター発表は所定のボードにポスターを貼り、指定された2日間のうちのどちらか1日、決められた時間内は自分のポスターの前に立ち、見に来てくださった方に対して解説を行います。時間が長く、コミュニケーションも密にすることができます。私たちの発表は9月23日(日) 9:30~12:00です。

記録的な残暑が続く9月21日(金)、仕事が終わったその足で空路熊本へと向かいました。一足先に熊本入りしていた博物館の遠藤さんと市内で落ち合い、ホテルで簡単な打合せをして、あとは明日からに備えてゆっくり休みましょう・・・というはずが、着かない、ホテルに着かない・・・地図を持っていたにも関わらず、まるで反対方向に歩いていました。本番を前に、予定外の市内観光をしてしまいました。ええ、私が道案内をいたしました。

翌朝9月22日(土)、遠藤さんと2人で学会会場の熊本大学に向かいます。遠藤さんは、学生時代から学会発表を継続されており、会場ではあちらこちらから「お久しぶり!」と声がかかります。立教大学でゴイスギをテーマにした論文で学位を取られ、それまでもゴイスギー筋の研究で、ゴイスギのスペシャリストです。

会場に着いた私たちは、プログラムを見ながらそれぞれ興味のある口頭発表を聞きに行きました。そして、休憩時間にポスターを貼り付けます。遠藤さん作成のポスターは、グラフや解説だけの単なる1枚もののポスターではなく、県内のコロニーが環境とどのように関連して分布しているのかがわ





発表する新田（筆者）

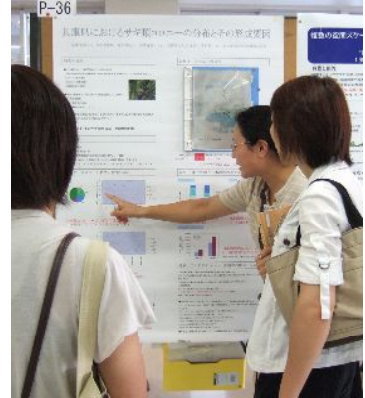
かるように、フィルムを重ねて立体的に示すような工夫がなされていました。この中から“私たちの

ポスターをぜひ見に来てください！”と宣伝する場として「ポスタートーク」という時間が設けられています。これは、皆の前でスライドを使いつつ自分の研究内容を簡潔に説明・アピールするものです。すべてのポスター発表者が行うわけではなく、事前にエントリーした希望者のみに時間が与えられます。遠藤さんは、これにもちゃんとエントリーされており、なんと私がこの役をやらせていただくことになりました。持ち時間は2分間。遠藤さんが準備しておられるスライドの打合せを簡単に行い、いざ本番。マイクを握ると、スライドを進めるのも忘れちゃうほど緊張してしまいました。こんなしゃべりで私たちのポスターに人が来てくれるでしょうか・・・？そして9月23日（日）、私たちの発表の日です。解説のしかた等について改めて確認すべく、早めに会場入りします。100近くあるポスターの内の半数が、今日が発表の日となります。それでも、発表時間開始とほぼ同時に私たちのポスターに人が訪れはじめました。まずは、遠藤さんが解説する様子をじっと見つめます。やがて、私にも説明する場面がまわってきました。おかげさまで、私たちのポスターの前は常に人だかりで、いつもどち

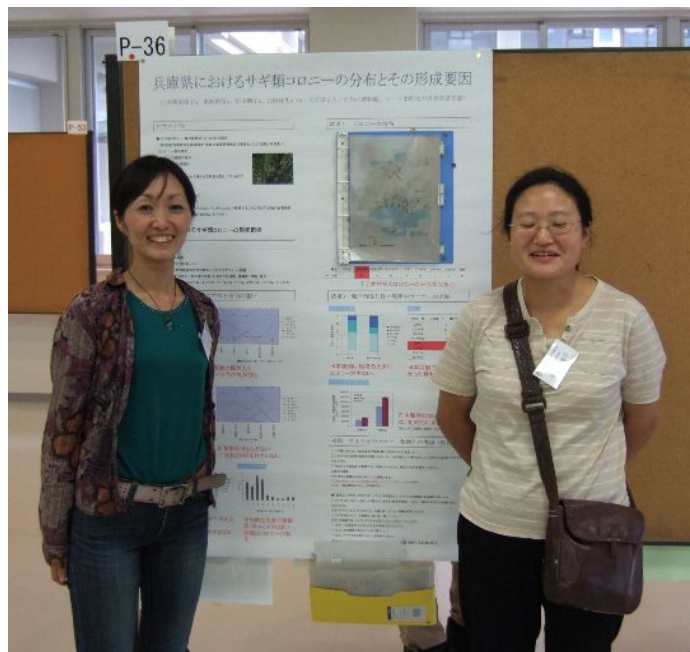
らかが内容説明しているという状況でした。これは、遠藤さんは今どんな研究をやっているの？という関心とともに、サギ類への関心の高さもあると言えるでしょ

う。ポスター発表の2時間半は、無我夢中で説明しているうちになんとか無事終了いたしました。

今まで、リスナーとして何回か鳥学会には参加したことはありましたが、発表する側として参加するのは初めてのことでした。これまでとは、やはり張り合いが全く違い、とても充実した3日間でした。そして、情報提供や現地調査にたくさんの方々が協力してくださったのこの時間なのだということを、常に心に留めての3日間でもありました。



説明する遠藤さん



ポスターの前で 遠藤さん(右)と新田(左)